



2023年 5月 10日 担当 虻川

## サウジ国営石油 19%減益 1～3月期、相場下落響く

サウジアラビア国営石油会社サウジアラムコが9日発表した2023年1～3月期決算は、最終利益が前年同期比約19%減の318億7800万ドル（約4兆3千億円）だった。昨年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻で急騰した原油相場が下落したため。通期でも減益となる可能性があり、サウジなど産油国が追加減産に動くかどうか焦点だ。

アラムコの業績は基本的に原油相場に左右される。ニューヨーク原油先物相場は昨年3月に一時1バレル＝130ドルを超えたが、米国発の金融システム不安の高まりなどを背景に、今年3月に一時70ドルを割り込んだ。

サウジなど石油輸出国機構（OPEC）プラスの枠組みに参加する一部の産油国は4月、相場下支えのため自主減産を決めた。一時的に相場は持ち直したが、その後再び下落に転じた。



ウメト インフォメーション



2023年 5月 10日 担当 虻川

## サウジアラムコ 19%減益 最終的な利益 4兆 3000億円

### 原油安受け

東京商品取引所のドバイ原油先物相場は大幅続落。中心限月 10月きり（6番ぎり）の始値は前営業日比 3570円安の 5万 9780円。日中立ち会いは、東京の大型連休中のニューヨーク原油（WTI）先物相場が米国の利上げに伴う景気減速懸念で大幅に下落した地合いを引き継ぎ、売りが優勢となっている。

ガソリン（バージ）、LNG、電力、大阪取引所の CME 原油等指数先物はいずれも出合いがない。世界有数の産油国、中東サウジアラビアの国営石油会社、サウジアラムコのことし 1月から 3月までの最終的な利益は、国際的な原油価格の下落傾向を受け、前の年の同じ時期に比べて 2割近く減少しました。

サウジアラビアの国営石油会社サウジアラムコは 9日、ことし 1月から 3月までの決算を発表しました。

それによりますと、最終的な利益は 319億ドル、日本円にしておよそ 4兆 3000億円で、前の年の同じ時期に比べて 19%減少しました。

サウジアラムコはウクライナ情勢を背景に原油価格が上昇したことを受け、去年 1年間の

最終的な利益が、2019年の上場以来最も多くなっていました。

ただ国際的な原油市場では去年の後半以降、世界の景気減速への懸念などから指標となる先物価格の下落傾向が続いていました。

石油収入に頼るサウジアラビアなど主な産油国は、価格を下支えしようと、今月から原油の生産量を大幅に減らしています。

主な産油国は来月、今後の生産方針などを協議する予定ですが、価格の下落傾向がさらに続けば、国内経済を支える石油収入にも影響するためさらなる減産が行われるかなど今後の動向が焦点となっています。

**NHK ニュース**



ウメモト インフォメーション



2023年 5月 10日 担当 虻川

## 日本財団、脱炭素に資する日本企業と石油メジャーの 2023 年度連携技術開発案件を発表

日本財団は5月5日、米国ヒューストン市内で開催された海洋技術開発に関する産学会合「ディープスター（注）・テクノロジー・シンポジウム 2023」で、日本企業と石油メジャーとの間で2023年度に実施される連携技術開発プロジェクト16件をビデオメッセージで発表した（添付資料表参照）。石油メジャーは深海での石油・ガスの探査・開発・生産にさまざまな課題を抱えており、昨今は脱炭素に資する技術にも関心を高めている。日本企業と石油メジャーがこうした課題を解決する技術を連携して開発し、商用化に結び付けることを目指している。

同会合は例年、ヒューストンで開催される世界最大規模の海洋開発技術会議・展示会 OTC の翌日に開催されている。今回は「OTC 2023」が閉幕した翌日の5月5日に、米国石油大手シェブロン（本社：カリフォルニア州サンラモン）のヒューストン拠点で開催された。会場には海洋石油ガス資源開発に携わる業界関係者ら約200人が参加し、日本関係者として INPEX、クレハ、大同特殊鋼、JFE スチール、白山工業、サイスガジェット、川崎

重工業、ハイボット、横河電機、オメガシミュレーション、島津製作所、信越化学、日立造船、日本郵船、日本海事協会、日本舶用工業会、日本経済新聞、ジェトロが参加した。

今回発表されたプロジェクトは、「海洋石油ガス分野の脱炭素化推進に向けた連携技術開発に関する覚書」に基づくものだ。2022年度に採択された継続事業が6件、2023年度に採択された新規事業が10件で（添付資料表参照）、いずれも2023年6月開始を予定している。ジェトロは覚書締結段階からこのプロジェクトに携わり、これまで日本財団とディープスターの連携技術開発案件の組成や、各プロジェクトのパートナーとなる日本企業とディープスターの契約締結支援、ウェブ会議を通じたプロジェクトの進捗管理などを通じて、採択された日本企業を積極的に支援している。

ビジネス短信 (JETRO)



ウメモト インフォメーション



2023年 5月 10日 担当 虻川

## 凸版印刷、北海道に次世代 DX 開発拠点の第 5 弾開設

凸版印刷（株）（麿秀晴社長）は、北海道函館市に新たなシステム開発拠点「ICT KŌBŌ HAKODATE（アイシーティーコーポー ハコダテ）」を開設した。

同社は、デジタルトランスフォーメーション（DX）部門の強化および多様な働き方の実現を目的として、全国にシステム開発拠点の増設を進めている。

今回開設した「ICT KŌBŌ HAKODATE」は、DX 戦略におけるシステム開発拠点の拡充と同時に、U/I ターン希望者の採用による移住者増加や、多様な働き方の実現および函館市を中心とする北海道地域での採用を拡大することによる「地域活性化」に貢献していく。

また、開設に合わせて北海道函館市と「協働のまちづくりに関する包括連携協定」を締結。函館市と凸版印刷は相互連携のもと、地域の様々な課題に対応し、地域社会の活性化を図っていく考え。



ウメモト インフォメーション



2023年 5月 10日 担当 虻川

## 【JP2023・印刷DX展】ホリゾン・ジャパン

ホリゾン・ジャパン株式会社は、「つながるFactory Automation」をテーマに掲げ、「JP2023・印刷DX展」で省人化・省力化に特化した先進的なシステムを紹介する。

情報革命により、世界や日本の社会や地域、人々の生活スタイルは大きく変化している。イノベーションはさらに加速し、産業の枠組みが大きく変わるデジタルトランスフォーメーション（DX）が産業のあらゆる分野で起こることが予測されている。

この市場や産業の再定義によって、新しいビジネスが誕生し、企業の業態変革は加速していく。印刷業界においても、AIやIoTなどのテクノロジーを核にして、情報・印刷メディアの変革と挑戦が求められている。

ホリゾングループでは、このような変わる印刷産業を支援するために、これまでの加工機提案の枠を超えて、印刷工程の上流のアライアンスメーカー数十社と“つながる”Factory Automation”を推進している。

同社が「JP2023・印刷DX展」で披露する「iCE Series」は、クライアントへのさらなる高付加価値を提供することを目指した次世代商品群。ユーザーフレンドリ

ーなインターフェースで作業性を向上させ、安定した生産性と自動化を高次元で追求している。

さらに、ワークフローシステム「i C E L I N K」との連携により、先進的な作業環境を構築することができる。

主な出展概要は次の通り。

#### ■ i C E L I N K

機械の稼働実績の見える化により、生産効率改善と予防保全活動を推進するもの。クラウドを利用して危機の稼働状況をリアルタイムに確認し、稼働状況などのログの取得や分析が可能なソフトウェアとなっている。

印刷革新会ブースではI C Eシリーズ「B Q—2 7 0」「H T—3 0 0」を用いて、単品損益の見える化をテーマにした実演を行う。

#### ■ 次世代型製本機「B Q—5 0 0」

拡張性と製本品質を追求した製本機「B Q—5 0 0」は、セット替えの高速化により、小ロットや1冊ずつ厚さが異なるバリエابل製本時にも高い生産性を実現する。

#### ■ ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム「S t i t c h L i n e r M a r k I V」

多品種少量生産に対応するために、機械の調整を全自動化することでセット替えの時間を極限まで短縮することができる。用紙搬送、筋入れ折り、針金長さの調整、断裁前の位置調整など、全てにおいて精度・品質・効率が向上する。

A4S綴り冊子は最高6000冊/時、A4E綴り（ランドスケープ）冊子は、最高5300冊/時で処理することができる（製本速度は紙質や紙の厚さによって異なる）。

■紙折機「AFV-564FKT」

全自動調整機能を搭載し、高品質で安定した折り精度を実現するもの。用紙サイズや折形などをタッチパネルに入力するだけでセットアップを自動で完了。スキルレスな操作性で熟練したオペレーターでなくても安定した折り精度が実現できる。

**印刷タイムス**